令和 4 年度第 3 回未来会議（全体会）　議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
書記・広報　鈴木　豊

日時：令和 4 年 6 月 19 日（日）13:30～15:10
（各分科会の打ち合わせは 16:10 まで）

会場：西集会所

出席者：（順不同、敬称略）
須都　紘（会長）、伊藤　智子、黒部　實（以上　副会長）
鎌田　卓（事務局長・会計）、鈴木　豊（書記・広報）
黒田　勝行、田口　信義、谷猪　富貴子、中世古　昭一、中谷内　政之、
平井　誠三、山地　祐輔、山田　勲、山田　修、渡辺　昇
傍聴：中尾議員（生駒市議会）
欠席：蔵田　かほり、野津　拓也（分科会のみオンライン参加）

配布資料：
① 議題
② 「子育て分科会」専門委員への委嘱書
③ 「子育て分科会」活動報告書
④ 「高齢者分科会」活動報告書
⑤ 「連合会ホームページへの提言」小委員会報告
⑥ 生駒市コミュニティバス「たけまる号」鹿ノ台線実証運行出発式＆試乗会
⑦ 「ソーラー発電勉強会」の立ち上げについて（案）
⑧ 令和 4 年度　宝くじ桜寄贈事業について

〇須都　未来会議会長より
・梅雨に入って蒸し暑くなりました。皆さま体調管理には気をつけてください。
・本日は多くの議題があり、時間がかかると思うので、効率よく進めていくようご協力をお願いする。早速、議論に入っていきたい。

○「子育て分科会」専門委員の委嘱について

・分科会のメンバーは昨年度末に 2 名の退会があった。新しい視点を持って課題出しや対策の検討を進めていきたいので、新たに専門委員を委嘱したい。

・今回の候補者は三室哲哉さんという方で、関東で長く教員をされておられ、この 4 月からは生駒市で教育政策を担当されている。4 月に鹿ノ台に転入されたばかりであるが、地域活動に興味をお持ちである。これまでにない意見等が出ることが期待できる。

・幹事会で未来会議の目的と経緯を説明し、理解したうえで、専門委員となることに同意いただいている。いかがでしょうか。

　→　拍手で承認。

○「子育て分科会」活動報告

放課後子ども教室「にじ」

・これまで 6 月 1 日（水）と 15 日（水）の 2 回、開催した。参加児童を 30 名に限定し、内訳は低学年（1・2 年生）19 名、中学年（3・4 年生）8 名、高学年（5・6 年生）3 名となっている。

・1 日（水）は前半で宿題をした後、後半はちょっとしたゲームをした。宿題を早く終わった子ども用に塗り絵、パズル、間違い探しなどを用意していたが、大人気であった。

・15 日（水）は体操教室をやっている先生に来てもらって、体育館で開催した。様々な運動を組み合わせて運動機能を高めるサーキット運動、傘を逆さにした玉入れや、「いろおに」などをやった。子どもたちはものすごく喜んでいた。

・子どもたちのこのようなエネルギーをどう発散させるかが課題だと感じた。子どもの体力低下が課題となっていることもあり、運動機能を高めるため運動会前の走り方教室などにも取り組んでいきたい。

・学生アルバイトや高校生のボランティアも都合をつけて参加してくれている。

鹿ノ台中央公園の魅力向上

・前回の未来会議に提案した、「中央公園南西側にターザンロープを設置」する案について生駒市みどり公園課と折衝した結果、下記の回答を得た。

1. 中央公園の使用許可は出す。
2. ターザンロープの設置費用は出せない。

3. 目視点検（3ヶ月ごと）と業者点検（年1回）は市で実施する。

・「市が点検を実施する」との回答が得られたことにより、設置後も継続的に安全を確保することが可能となった。

・設置費用をどのように捻出するかが大きな課題である。対象となりそうな助成金・補助金は今のところ見当たらないため、クラウドファンディングの活用を検討してみたい。

・クラウドファンディングは、夢や想いを世の中へ発信し、その活動を応援したい人々から少額ずつ出資してもらう仕組みである。今回の案件では、出資者に報酬を返さない「寄付型」となる。不明点もあるため、今回の案件で問題なく活用できるのか詳しく調査し、その結果を改めて報告したい。

・地域の活性化につながる事業でクラウドファンディングが活用できるのであれば、今後、未来会議が推進する事業において、大きな後押しとなりうる。

こどもの休日イベント

・生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」の年間活動の活動先として鹿ノ台を選んでもらったので、イベントの概要を打ち合わせした。

1. イベントの開催日時：11月6日（日）10:30 - 12:00
2. 場所：ふれあいホール（大集会室、小集会室、和室)、いきいき広場
3. 内容：工作、スポーツ（こどもたちが楽しめる内容を検討中）

意見交換

・自治総合センターなどにターザンロープの設置に対応できる補助事業があるかもしれない。確認してみる。

○「高齢者分科会」活動報告

第1回鹿ノ台支え合い準備委員会

・第1回の会議を5月26日（木）に開催した。参加者は15名で、所属は連合会、鹿ノ台各老人会、ふくまち鹿ノ台、未来会議高齢者分科会、バンビ・カフェ、いきいき街づくり会である。

・委員会で出された主な意見、課題は下記のとおり。

1. 「困っている人をどのように探すか」と「サポートをどのように仕組みづけるか」を同時並行で検討する。
2. 連合会でやることについては信頼感が高い。

3. 仲間づくりが基本。
4. 「できるところからやるのではなく、全体のストーリーを作ってからやるべきだ」という意見が出る一方で、「何年もかかってできていないので、できるところから具体的に仕組みを作って取り組む方が良い」という意見も出た。
5. ゴミ問題については、近隣の思いやりがまずは大切であるが、有償を含むボランティアの仕組みづくりや外部業者へ依頼する方法の検討も必要。
6. 認知症が多くなっている。対応者養成講座の開催が必要かもしれない。

・今後は 6 月 21 日（火）に役員会を開催し、27 日（月）に全体会を開催する。全体会ではライフケア創合研究所の湯川代表の講演を受けるほか、生駒市環境保全課から、ゴミ収集について現状と改善策の説明を受ける。

意見交換

・いつまで「準備委員会」なのか。
　→ 方向性が見えてきたら「準備」が取れて「支え合い委員会」とする。遅くとも年度末までには方向性を見出したい。
　→ 全部を一度にはできないが、できるところから優先順位をつけて対応していきたい。
・鹿ノ台において福祉を担当する委員会等が参加しているが、この委員会が鹿ノ台全体の課題を包括的に検討していくことになるのか。
　→ そのように考えている。
・自治連合会の役員が参加されているが、役員としてこの委員会に参加しているのか。
　→ 役員として参加しているため、役員が代われば委員も代わる。
・事務局機能はどこが（誰が）担うのか。
　→ 案はできている。次回の委員会で決めたい。

○「交流分科会」活動報告

・いきいき広場が完成している。世代を超えた交流の場として活用することを検討していきたい。
・コロナ禍の影響で長く閉鎖が続いたキッズルームも、ようやく再開することができた。
・「森のコンサート」をご覧になった住民の方が、「ありがとう」というメッセ

ージを添えてその様子を絵に描かれた。絵画はふれあいホール 2 階階段の踊り場に飾ってある。

○「連合会ホームページへの提言」小委員会報告

・5 月 22 日（日）に、連合会ホームページ委員会（以下「ホームページ委員会」という。）と最後の合同会議を行った。
・結論としては、当小委員会のメンバー3 名（黒田、山地、鈴木）が、ホームページ委員会に参加し、委員会のメンバーとして、転入促進の観点も踏まえてホームページの更新を実現していくこととした。
・これまで新規の委員参加がなかったホームページ委員会からは、歓迎の声が上がっていた。

○　生駒市コミュニティバス「たけまる号」鹿ノ台線　実証運行出発式＆試乗会

・「たけまる号」鹿ノ台線は、8 月 1 日（月）より 1 年間の実証運行が開始される。高齢化が進み、坂道の多い鹿ノ台において、地域の強い要望に基づき、住民の移動手段を確保し活動機会を保証するため、生駒市が公共交通網として運営するものである。
・実証運行が始まることを住民の皆さんに知ってもらうことが何よりも大切であるため、市長以下の関係者の出席を得て、出発式と試乗会を行う。
・試乗会では、住民の皆さんに実際に乗車体験をして、理解を深めていただく。試乗会の運賃は無料である。特に桜美会の方にはぜひ、試乗していただきたい。
・各評議員会と各桜美会にコミバス委員会委員が伺って、詳細を説明する。

<u>出発式</u>

・日時：7 月 31 日（日）10 時開始
・出席者：小紫市長、土井生駒市公共交通活性化協議会議長、森岡同副議長・生駒市自治連合会会長、森島奈良交通社長、ショッピングモール、いそかわ、自治連合会役員、関連する委員会等の代表、コミバス委員会委員・サポーター、停留所設置箇所の住民に皆さん　計 90 名
・ご来賓の皆様から挨拶を受けたあと、テープカットを行い、来賓の皆様に一番バスに乗車していただく。

試乗会

・7 月 31 日の午後から、試乗会を行う。試乗会では、学研奈良登美ケ丘駅に向かう実証運行のルートとは異なり、鹿ノ台内のみを巡回する。
・試乗会用のダイヤは別に作る。詳しいこと回覧などでお知らせする。

時刻表パンフレット

・コミバス委員会で作成中。コミバス実証運行のために協賛いただくことができたので、パンフレット作成や出発式・試乗会に係る費用負担は発生していない。
・パンフレットは 7 月初めに保存版として住民の皆さんに配布する。

意見交換

・停留所標識は、いつ配置されるのか。
　→ 7 月中旬ごろの予定。標識が配置されれば、一気に周知が進む。
・「鹿ノ台線」が載るたけまる号の時刻表は、作成されないのか。
　→ 実証運行中は作成しないと聞いているが、正式運用となれば作成されるはずである。
・実証運行実施までに 5 年かかったが、実証運行で出て来る課題について本格運行に向けて、さらに準備を進めていく必要がある。
・乗車をサポートするボランティアが必要との意見が出ている。この場合はボランティアの運賃を無料とすべきだが、バスの運転手には見分けがつかないので、見分けるための方策が必要である。
・出発式、試乗会などは写真や動画できちんと記録しておくべきだ。

○　「ソーラー発電勉強会」の立ち上げについて

背景

・産業革命以来の化石燃料の多用により大気中の CO_2 濃度が増加し、地球温暖化が進行している。温暖化は異常高温（熱波）、大雨、干ばつなどの自然災害を引き起こし、農作物の収穫量に悪影響を与えている。
・日本もようやく CO_2 削減に取り組み、世界に向けて 2050 年にカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする取組み）を公約した。
・公約した以上、諸外国から達成状況を確認されることになる。このような取り組みがきちんとできていない国・企業は評価されず、投資もされないだろう。

・公約を実現するため、内閣官房が中心となった「国・地方脱炭素実現会議」において「地域脱炭素ロードマップ」が策定され、全国で 100 箇所の脱炭素先行地域を作る準備が進められている。
・環境モデル都市に選定されている生駒市においても、脱炭素先行地域の認定に向け様々な準備が進められていると想定している。
・このような流れに即応し、鹿ノ台においてもソーラー発電の可能性についてまずは勉強会から始めることを提案する。
・とはいえ、「ソーラー発電ありき」ではない。ソーラー発電はあくまで脱炭素社会の一環である。一方で全国 100 箇所の脱炭素先行地域に生駒市が選ばれた場合は補助金がつくため、ソーラー発電が最初の現実的な選択となると考えて、勉強会の議題とした。

勉強会の目的・内容

・環境モデル都市にふさわしいまちづくりをめざすため、勉強会を通じてソーラー発電への理解を深めることを目的とする。
・内容としては、事前にテーマを決め、情報を持ち寄り、勉強会で意見交換する。折りに触れ外部の関係者を招聘し、勉強会の充実を図る。
・参加者としては、未来会議の有志からはじめるが、興味がある住民の方も自由に参加していただきたい。

日程（予定）

・原則として第 4 水曜日 13:30～15:30 開催(会場の都合等で変更する場合あり)
　第 1 回：6 月 22 日（水）いきいきホール 2 階談話室
　　議題：今後の進め方、脱炭素社会・これまでの流れ
　第 2 回：7 月 28 日（木）いきいきホール 2 階大会議室（以降、議題は未定）
　第 3 回：8 月 24 日（水）いきいきホール 2 階大会議室
・世話役は山田修さん（東 2 丁目）

意見交換

・社会実験のモデルケースとして、ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス：消費エネルギーよりも自家で創出するエネルギーが大きい住宅）の家を建てている。ZEH とするために必要な追加費用の半分程度は補助金で賄うことができ、10 年程度で追加費用をペイできる見込み。
・次世代に資源を残していくために、「エネルギー家計簿」という取り組みも行われている。

・ソーラー発電がどのようにまちづくりに反映されるのかについてもこの勉強会で検討して、未来会議に報告してもらいたい。
・個人宅の話なのか、地域全体の話なのか。個人宅の話であれば、自治会では扱えない。
　→　個人宅の話はできないが、個人に啓蒙していくことは必要だと思う。
・鹿ノ台をどういうまちにしたいかが、大切。生駒市には「スマートシティ構想」（デジタル技術を活用して多様な生き方や暮らし方を実現するまちづくりの構想）がある。これの鹿ノ台版ができればよいと思う。未来会議は、専門家の知見を取り入れるなど勉強して、3 年後、5 年後の鹿ノ台の姿を描いていく必要があるのではないか。
・未来会議でも鹿ノ台にスマートシティの考え方を取り入れていく議論をしたら良い。
　→　スマートシティの中身がまだわからない中で、これを取り入れていくとは言い切れないのではないか。
　→　スマートシティなどのデジタル技術は住環境整備の一つの手段であり、目的ではない。鹿ノ台の住民にとって必要なことは、緑豊かな住環境や安心・安全だと思う。
・企業では脱炭素に取り組んでいるかどうかを外部から見られている。自治会ではまだ脱炭素の取組みの有無で評価はされていないが、今後は評価される可能性はある。自治会だけでできることには限りはあるが、企業と協働するなら、何かできるかもしれない。
・行政は地域に何をやってほしいと考えているのか。
　→　具体的なことはあまり見えていない。結ネットを使っている鹿ノ台が先行的だと評価されているくらいで、まだまだ進行中である。
・専門家の話を聞いて勉強しはじめておくことは必要だと思う。
・ソーラー発電にこだわっていないのなら、勉強会の名称を変更する方がよいと思う。
　→　勉強の入り口としては、脱炭素まちづくりを追加して「ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会」でよいのではないか。
・ソーラー発電はやれる人からやったら良い。知らない人には必要なときに参考として情報提供できればよい。
・（会長）勉強会は未来会議の有志とそれ以外の関心ある希望者により始めたい。

○　令和４年度　宝くじ桜寄贈事業について

・「宝くじ桜寄贈事業」とは、「にほんさくらの会」が宝くじの益金の助成を受け、市町村や地域団体に桜の若木を寄贈する事業である。奈良県経由で生駒市から ECOKA 委員会にこの事業への申請の有無を照会されている。申請締切は６月 30 日。

・（田口連合会会長）ECOKA 委員会から、各地区にある街区公園に桜の若木 200 本を植えるので申請したいという提案を受けた。申請の窓口と桜の木の管理は自治連合会となる。各自治会からは、「街区公園の落ち葉の清掃が大変で、自分たちではできない」という声をよく聞く。申請の締切が６月 30 日であり、連合会役員会での検討が間に合わないため、申請は来年にした方がよいと考えている。

・（山田 ECOKA 委員長）街開きから 40 年以上が経過し、鹿ノ台の桜もだいぶ弱っている。そろそろ植え替えの時期であり、街開き 50 周年に向けた事業の一環として、植え替えを進めたらどうかと提案した。どこに植えるかイメージはできている。植栽は ECOKA 委員会でやる。費用をかけないで環境整備できる良い提案である。若木なので、200 本植えても半分近くは枯れる恐れがあり、落ち葉掃除の大きな負担増にはなりにくいと思う。

意見交換

・各自治会が清掃を担当している街区公園に植えるなら、連合会に諮って各自治会の承認を得る必要がある。

・ECOKA 委員会に全部、頼るわけにもいかないので、別の組織がいるかもしれない。

・維持するためには費用は必要となってくる。落ち葉掃除がたいへんになることもあり、よく考え皆で納得する答えを出してから、進めたい。

　→　公園の落ち葉掃除がたいへんだという話は、高齢者分科会でも課題として上がっている。

　→　落ち葉掃除ばかりを気にすると、常緑樹しか植えられなくなる。

・街区公園の清掃がたいへんだというのなら、中央公園と運動公園だけに 100 本植えるという案でもよい。

・（田口連合会会長）連合会役員会で時間をとるので、提案してもらいたい。

◯　各分科会の打ち合わせ

・各分科会に分かれて、打ち合わせを実施

次回

日時

令和 4 年 7 月 17 日（日）13:30 – 16:00

第 1 部　全体会　　13:30 - 15:00

第 2 部　各分科会　15:00 - 16:00

※「南北」の構成員及び幹事は 13:15 集合

会場

西集会所

主な議題（予定）

1. 各分科会からの報告
2. 共通報告事項
3. 各分科会の打ち合わせ
4. その他

以上